

看護総合研究センターの活動

看護総合研究センター運営委員

土肥敏博 森田克也 加藤重子 進藤美樹 矢野秀樹

FD 委員会委員長

山内京子

看護研究科委員会委員長

岡本陽子

研究茶話会の開催

研究茶話会は、2020 年度は新型コロナウイルスのため 12 月の 1 回だけの開催であった。

2020 年はフローレンス・ナイチンゲール生誕 200 年にあたる (1820-1910)。1965 年から、国際看護師協会(本部:ジュネーブ)は、5 月 12 日を国際ナースデー (International Nurses Day)に定めている。この日は、ナイチンゲールの誕生日に由来し、ナイチンゲールの日とも呼ばれている。日本では 5 月 12 日を「看護の日」と制定 (1990 年) した。21 世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要とした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、旧厚生省、市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動が、きっかけであった。

ナイチンゲールは、19 世紀にヨーロッパで起きた悲惨なクリミア戦争の中で、野戦病院に日夜運ばれてくる患者を 1 日中癒し続けた看護師としてよく知られている。戦争で傷ついた患者に何時間も包帯を巻き続ける彼女に、いつしか「クリミアの天使」と呼ばれるようになった。看護師としても非常に優れた業績を残した彼女であるが、歴史に残る活躍をするのは戦争が終結してからである。帰国したナイチンゲールは、自らもクリミア熱という流行病にかかり病床につくが、この時、野戦病院の経験から、「当時の陸軍病院の死亡の大半は戦争によるケガなどではなく、院内の劣悪な衛生環境にある」ことを突き止めた。ナイチンゲールは「クリミアの天使」ともう一つの顔「統計学の母」とも呼ばれている。戦争の犠牲者は衛生環境の劣悪に起因するという事実を誰にでもわかりやすく説明するために数学・統計学を生かして「こうもりグラフ」「鶏のとさかグラフ」などの様々なデータ集計・可視化を行い、病院の現状をイギリス議会に訴えるなどの運動を展開した。

本学部には、ナイチンゲール研究の大家、佐々木秀美先生がおられる。先生はナイチンゲール研究で「博士号」を取得され、その後も研究活動を継続され沢山の論文や著書を著わしておられます。本学紀要誌「看護総合研究」には年度々ナイチンゲールに関する様々な角度からの連載記事を発表され、学内外の看護教育、現場で働く看護師に広く愛読されている。

丁度今年はナイチンゲールの記念すべき年にあたり、佐々木先生に本研究茶話会でご講演いただくのは時宜を得たものと思い、看護研究茶話会でお話いただいた。



<看護学部図書館前のナイチンゲール像の写真>

ナイチンゲールの残した名言「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者である。」は、今節新型コロナウイルス感染症患者の看護に携わる看護師さんの姿を現わしている。

第4回看護研究茶話会

主催：看護総合研究センター・FD委員会

日時：2020年12月3日（木）、12：00～13：00

場所：オープンコモンズ

演者：佐々木秀美先生

講演タイトル：「ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした看護教育の歴史」

会場講演とweb配信を同時に行った。会場には11名の参加があり、密にならない丁度良い人数であった。Webからは5名の参加があった。

佐々木先生のナイチンゲールの歴史から掘り起こした“ディアコニッセから発生した看護教育”について拡張の高いご講演に一同酔いしれた。（佐々木先生ご発表要旨「ドイツにおけるディアコニッセ養成を原点とした看護教育の歴史」は別途掲載）



スライドは「ナイチンゲールのお墓」。お参りされた佐々木先生曰く“これまで訪れた日本人はいない”とのことでした。



ソーシャルディスタンスを十分にとった講演会風景（会場：オープンコモンズ）

会場から以下のような発言があった。

・一人の人を深く研究するという事はこういう事なのか、と改めて感銘いたしました。(岡本陽子)

・ディアコニッセの語源、意味について、ギリシャ語ではサーバント(使用人)あるいは執事の意味で使われていて、佐々木先生がお答えになった内容と同じになりましたので、納得した次第です。(中村 哲)

・私の質問というより感想ですが以下の通りです。2018年、本学で開催された看護歴史学会が講演されました。その折に、浜松市三方原にある社会福祉法人「十字の園」理事長、平井章氏が講演されました。内容は、「十字の園」の開設者、長谷川保氏の看護・福祉における思想についてでした。当時、衆議院議員であった長谷川保は、昭和28年ドイツからディアコニッセの奉仕女を5名、三方ヶ原に招きました。この人々の援助で、その後の寝たきり老人を収容する「十字の園」開設(昭和36年)につながっていくのですが、今回の佐々木先生のお話でディアコニッセについてその思想・目的・歴史が良くわかり納得しました。

追記：その後佐々木先生から長谷川保に関する話が若干出ました。これは当日のディアコニッセの話とは全くかわりありませんが、話の背景、内容は以下の通りです。

佐々木先生から “長谷川保は「憲法25条」の草案に関わったということと、旧生活保護法の制定に関与したということが言われているが証拠がない” というお話がありました。長谷川が衆議院議員(社会党から)に初当選した当時は社会党の片山内閣だったので、関与は考えられます。本人も自伝の中でそのように書いています。「老いと死をみとる 聖隷ホスピスのあゆみ」柏樹社1982年、p133.

「憲法25条」に関しては、長谷川保は当時の森戸代議士を強く支持する立場であったため、関わったという言い方をされたのであろうと思います。「夜も昼のように輝く」講談社1971年、p236.

格調の高い、良い講演でしたね。

また、このようなお話を聞く機会があればと茶話会に期待しております。

ありがとうございました。(塩谷久子)

・「女性に職業訓練を施すことのみではない」というディアコニッセから派生したスピリチュアルな看護教育の神髄がひしひしと伝わって感動いたしました。(土肥敏博)